

剣道選手の性格的特徴と 試合に向けての心理状態の変化

The features of mentality and the changes of mental condition of players toward matches in kendo

1K10C463-0 横尾 由布子
主査 正木宏明 先生 副査 堀野博幸 先生

【目的】

本研究の目的は、POMS を用いて試合一週間前と前日の二度にわたって調査を行い、心理的状況・変化を比べることから、試合に向けてどのような気持ちの変動があるのかを調べるために行った。また、それを更にレギュラー選手・非レギュラー選手に分け分析することにより試合に臨むにあたってどのような心理状態であることが適正であるかを知るためである。また、少しでも選手の考えや心理状態・変化を知ることによって多くの人達のマイナス要素を取り除き、より良い結果が出せるよう力になりたいと考えたからである。

加えて、YG 性格検査（谷田部ギルフォード）を用いて剣道選手と他スポーツ選手との性格の違いを見ることによって、剣道を行う際に必要とされる平常心が本当に優れているのかを知るため、剣道選手特有の性格をみつけるためである。また、剣道選手の中でもレギュラー選手と非レギュラー選手で比較することにより、強さに必要だったり、選手として活躍したりすることで養った性格をみつけるためである。

【方法】

調査日時

YG 性格検査：2013 年 11 月 9 日

POMS：2013 年 11 月 9 日と 11 月 16 日

調査対象者

第 78 回早慶対抗剣道試合に出場する男子選手 20 名（1 年生 4 名，2 年生 6 名，3 年生 5 名，4 年生 5 名）。

基本的に、男子学生の剣道の試合は 9 人が選手登録される。よって、20 名の内 9 人をレギュラー選手，11 人を非レギュラー選手とする。

【結果】

剣道選手の性格的特徴については、レギュラー選手と非レギュラー選手において、唯一有意差がみられたのが思考的外向の数値であった ($t(18)=2.42, p=0.02$)。しかし、全選手をみても、最も低い数値が思考的外向であった。しかし、剣道選手の中でもレギュラー選手と非レギュラー選手を比較したところ、数値は大きく異なり

非レギュラー選手に比べレギュラー選手の方が高い数値を示した。剣道選手とバスケットボール選手の比較については、バスケットボール選手は思考的外向の項目において、レギュラー選手と非レギュラー選手の間に有意差はみられなかった。

また、剣道選手の試合前の心理状態の変化について、活動性の項目においてレギュラー選手・非レギュラー選手との間で有意差がみられた ($t(18)=2.36, p=0.02$)。高い数値を示したのはレギュラー選手の方であった。抑うつ―落ち込みの項目については、レギュラー選手・非レギュラー選手との間で、一週間前では有意差がみられなかったにも関わらず、前日にだけ有意差が見られるという結果になった。 ($t(18)=-2.34, p=0.03$) また、学年別・勝利の有無について比較を行ったところ、有意差がみられなかった。

【考察】

YG 性格検査と POMS の結果から、レギュラー選手は物事を悪いように考え過ぎず、プラス思考であるということが感じられる。どんなに悪い環境や状態であっても深く考えすぎず、すぐに適正な判断や改善策をみつけられるということだろう。剣道選手とバスケットボール選手の比較から、バスケットボール選手は思考的な面においてレギュラー選手と非レギュラー選手に違いがないとは言え、剣道選手には重要であると考えられる。

また、剣道選手の試合前の心理状態の変化について、レギュラー選手の方が日ごろから自ら率先して行おうとする傾向があると言える。抑うつ―落ち込みの項目について、一週間前から前日にかけてレギュラー選手にはほとんど変化が見られなかった一方で、非レギュラー選手には大幅な変化がみられた。よって、レギュラー選手は気持ちのコントロールを行うことができると考える。

最後に、剣道は個人競技ではあるが、団体戦になるとポジションが違ってくる。また、男女で試合前の心理状態の変化は大きく違うと予想される。よって、本調査の結果から比較対象をさらに細かく区切って調査してゆくことで、もっと大きな違いや明らかなデータを取ることができるであろう。これが今後の課題となってくる。